

これからの繰り返し学習

基礎的・基本的な知識・技能

繰り返し学習の重要性は以前から言われています。基礎的・基本的な知識や技能などの定着や習熟の状況はどうなのでしょう。これまで十分ではなかったと捉えるべきです。

従来の繰り返し学習では、漢字の習得や英語の単語を覚えさせるために、機械的に記憶させて子どもたちが習熟できるよう練習や訓練がなされてきた一面があります。しかし今では、生きる力や考える力が標榜されています。子どもたちが、主体的に学ぶ力を育むことが求められています。ただ繰り返し学習をさせるだけでは、それは単なる訓練やドリルに過ぎません。

これからの繰り返し学習では、生きるために意味のあることを子どもたちが主体的に、かつ積極的に繰り返し学習することが肝要です。その繰り返しが、自主学習ないしは自己学習に結びついたものでなければ意味をなしません。

聞く力、話す力、読む力を育てるポスターセッション

ポスターセッションとは、発表することと聞くこととを多数のグループが同時に行うプレゼンテーションの方法です。

中学3年生において、『故郷』を学習材としてポスターセッションを取り入れ、次のように展開しました。

◇ 一次	『故郷』を読む。	5 時間
◇ 二次	自分が追求したい課題について調べる。	4 時間
	○ 個人やグループで調べ学習を進める。	
	○ グループでポスターセッションの準備をする。	
	○ 発表内容をPRする。	
◇ 三次	発表会〈ポスターセッション〉	2 時間
◇ 四次	まとめと自己評価をする。	1 時間
		計 12 時間

ポスターセッションの準備をするために、子どもたちは作品を繰り返し読み、確かに深く読む体験をするとともに、必要なところを摘読する力も身につけていきました。

子どもたちは、19人ずつ発表する側と聞く側とに分かれ、発表する側は、ポスターと発表原稿を用意していました。聞く側は、予想カードの質問したいことに書き込みをして臨んでいました。実際には、それぞれのグループは調べたいことの発表と質問への応答におよそ10分ほどを使い、1時間の学習時間の中で3回同じ発表をしていました。聞き手を替えて発表を3回繰り返したわけです。説明の仕方は質問を受けるたびに改善され、回を追うごとに向上していきました。聞く側は予想カードにメモを書き、それを使って質問をしていました。やはり、回を追うごとにメモの取り方や質問の仕方が向上していきました。

このように、ポスターセッションは、話す側には同じ内容を繰り返し話す場を設定します。聞く側には少しずつ違う話を繰り返して聞く場を用意します。説明することと聞くことに習熟させ、説明するたびに作品の読みが深くなっていきます。

学習への意欲とスタイル

一人一人の子どもの学習への意欲と学習のスタイルは様々です。この学習への意欲とスタイルこそが子どもの個性であり、繰り返し学習の中でこそ表れるものです。子ども一人一人が、自発的に自分の個性を見つめ、気づくとともに、他の個性をも尊重していくこと、すなわち、自分の考えを進んで出し合い、同時に他のよい考えも積極的に取り入れていくこと、それこそが、学習コミュニケーションづくりに役立ち、ひいては生きる力や考える力に結びついていくこととなります。